TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

神さまの知恵-愛　その1
コリントの信徒への手紙一 13:1-7

2025 年 7 月 12 日 & 13 日
余沢　武 牧師

I 初めに

皆さん、こんにちは。これまでに何度かお伝えしてきたように、今日は改訂版の「インパクト・ビルディング・プロジェクト」をご紹介したいと思います。
まずはこちらのビデオをご一緒にご覧ください。

質疑応答の時間は 8 月に設ける予定です。現在の会堂は築 66 年になります。70 年を迎える前に、新しい会堂を建てたいと願っています。

かつて忠実な信仰者たちを通してこの建物が与えられたように、今度もまた神様が新しい建物を与えてくださり、これからもこの都市、この国、そして世界にインパクトを与え続けることができますように、一緒に祈りましょう。皆さんお一人おひとり、静かにお祈りください。

コリント人への手紙第一では、教会の中で社会的背景の異なる教会メンバーに対して無関心な人々がいたこと、そして多くの人が「霊的な賜物」を兄弟姉妹のために用いようとしなかったことを見てきました。パウロは彼らにこう思い起こさせました。目立つ賜物あろうとなかろうと、すべての霊的な賜物は神から与えられたものであり、教会に仕えるために用いるべきものだと。私たちは賜物を使うべきです。私たちが、皆の利益になる、より大きな賜物を求めることは良いことです。しかし、それらの霊的な賜物よりも、さらに大切なものがあります。

II. 愛その1

(1) 愛がなければ、すべては無に等しい。

コリントの信徒への手紙一 13 章 1－3 節を開いてください。

「[1] たとえ、人々の異言、天使たちの異言を語ろうとも、愛がなければ、私は騒がしいどら、やかましいシンバル。[2] たとえ私が、預言する力を持ち、あらゆる秘義とあらゆる知識に通じていても、また、山を移すほどの信仰を持っていても、愛がなければ、無に等しい。[3] また、全財産を人に分け与えても、焼かれるために わが身を引き渡しても、愛がなければ、私には何の益もない。」

私たちの霊的な賜物はすべて、教会がこの世においてキリストの体であるために必要なものです。しかし、それらよりもさらに大切なものがあります。それが「愛」です。パウロはこう言っています。たとえ、「人々の異言、天使たちの異言」を話せたとしても、愛がなければ、それは騒がしいどらや、やかましいシンバルのような、ただの騒音にすぎません。
「預言する力」や、すべての「あらゆる秘義とあらゆる知識に通じていても」、愛がなければ、私は無に等しい。
「山を移すほどの信仰」、つまり不可能を可能にするほどの信仰があっても、愛がなければ、私は何の益もありません。
「全財産を人に分け与えても」、愛がなければ、私に何の益にもならない。
「焼かれるためにわが身を引き渡しても」、つまり苦しみに身を差し出しても、愛がなければ、私には何の益にもならないのです。

これはいったいどういうことでしょうか？
覚えておきましょう。私たちクリスチャンは、特別な存在です。私たちは、次のことを認め、受け入れた者たちです。
① 自分が罪人であることを認めた。
② イエスが私たちの罪のために死に、その罰を身代わりに受けてくださったことを受け入れた。
③ 赦しと助けをイエスに願い求めた。それは、私たちがイエスのご性質を受け継いで生きるためであり、それこそが私たちの第一の目標なのです。

私たちが毎週礼拝に集うのは、イエスと似た姿になっていくためであり、また他の人たちもそうなれるよう励ますためです。そして神は、すべての人にその助けとなる霊的な賜物を与えてくださっています。けれども、もし私たちがその賜物を使いながらも、イエスに似た者になっていかないのであれば、それは的を外しているのです。

例えば、日本では、小学生たちが学校の掃除をします。毎日、生徒たちは自分の教室、様々な部室、そしてトイレまで掃除します。では、一番きれいな学校が一番良い学校なのでしょうか？ 違います。それは学校の本来の目的ではありません。学校の目的は、生徒たちを社会的、感情的、そして学習面において成長を助けることです。 掃除はそのための手段のひとつに過ぎません。けれども、子どもたちが社会的にも感情的にも学習面においても成長していないのであれば、たとえ学校がどんなにきれいでも、それは意味がないのです。

教会も同じです。教会の目的は、私たちがイエスのような性質と愛を持つように育てていくことです。霊的な賜物はそのための「道具」にすぎません。けれども、私たちが愛において成長していないのであれば、その賜物がどんなに素晴らしく見えても意味を成さないのです。それが教えることであれ、賛美することであれ、助けることであっても意味を成しません。

(2) チャレンジ

霊的な賜物は、他の人を愛するために用いられるべきものです。でも、ここであることが起きます。自分の賜物を用いて誰かに仕えようとするとき、教会の人々を愛するのは簡単とは限らないからです。

私が TBC で信仰を持ったばかりの頃、児童養護施設(または子どもの家)のミニストリーで奉仕していました。毎月訪問して、子どもたちと一緒に過ごしていたのですが、ある日、「あのミニストリーは子どもと遊ぶだけで、福音を伝えていない」と言っている人がいて、ショックを受けました。

でもそれは事実ではないと分かっていました。毎月子どもたちに福音を伝えるのは、私の役割できちんと奉仕をしていたからです。そういう言葉を聞くのは、とても辛いことでした。

その後、中学生のサンデースクールの教師として奉仕するようになりました。でも、私が教えているとき、生徒たちは無表情でただじっと私を見ているだけのことが多かったです。大人のバイブルスタディの教師が、生徒から反応をもらっているのを見て、うらやましく感じたこともあります。奉仕を続けるのは簡単ではありませんでした。

数年後、私は副牧師として仕えるようになりました。すると時々、私を無視したり、嫌悪感をあからさまに表す人にも出会いました。

教会で誰かに仕えようとすればするほど、すべての人を愛し、すべての人を赦し、人を批判しないことが、ますます難しくなっていくのです。

まさにこの理由のために、私たちは皆、自分に与えられた霊的な賜物を用いて、教会で仕える必要があるのです。実際に人と関わりながら仕えるとき、私たちは自分の本当の姿と向き合うことになります。どれだけ自分が愛に欠け、赦すことができず、まさにプライドに満ちているかを思い知らされるのです。

しかし、私たちがへりくだることを選び、他人を責めるのではなく、内面の自分が罪深いものであることを認め、私たちの、 自分の罪のためにイエスが十字架にかかって死なれたことを受け入れ、赦しを願い、変えてくださるように心から助けを求めるなら、神の恵みによって、少しずつ、私たちは変えられていきます。私たちを批判し、無視し、時には憎む人々に対してさえも、赦し、祈っている自分に気が付くでしょう。その人たちを愛し、その人たちの変化を願い、なおもその人たちに喜んで仕え続けている自分に気づくでしょう。

そして、自分は良いものなどない「無に等しい」もの、ではないと認めるようになるでしょう。 これまでなかった、新しいイエスのイメージ、イエスのご性質、イエスの愛が私たちの内にあるようになるのです 。私たちはまさに「キリストの愛」を表すことのできる「キリストのからだ」となるのです。

(3) 愛

私たちは人々にこう示すことができます。「4: 愛は忍耐強い。愛は情け深い。」

「忍耐強い」とは、何度もひどい扱いを受けても、怒ることなく耐える力を持つということです。

私たちが教える、賛美する、助けるなどの奉仕を通して、この「忍耐強さ」を表すとき、私たちはもはや「無に等しい」ものではありません。私たちはイエスの愛を示しているのです。

「情け深い」とは、自分に害を与える人に対してさえも、積極的に良いことをするということです。ですから、「愛」とはただ怒るのを我慢するだけでなく、「愛」はむしろ積極的にその人に良いことをしていくので

す。霊的な賜物は、私たちに「忍耐強さ」と「情け深さ」を実践し、教会の兄弟姉妹を愛し、イエスに似た姿に成長し変えられていく機会を与えてくれます。私たちは皆、成長しなければならないのです。

そのあとパウロは、イエスの愛の性質とは正反対の８つのことを挙げています。

4節から6節「[4](愛は)妬まない。愛は自慢せず、高ぶらない。[5]礼を失せず、自分の利益を求めず、怒らず、悪をたくらまない。[6]不正を喜ばず、真理を共に喜ぶ。」

これらは、「愛がどのようなものでないか」を示しています。

「妬まない」：他人の富や幸せな姿に対して、否定的な感情を抱くことはありません。

「自慢せず」：自分を誇ったり、持ち上げたりしません。

「高ぶらない」：自分に注目させようとはしません。

「礼を失せず」：不誠実な行動をしたり、礼儀を欠いたりしません。ここでは、おそらく礼拝での不道徳なふるまいや、かしらを軽んじる態度のことを指していると思われます。

「自分の利益を求めず」：自分の都合や利益ばかりを考えません。これは、おそらく偶像に捧げられた肉を食べることや、他の人を待たずに主の晩餐を先に食べてしまう行為を指しているのでしょう。

「怒らず」：すぐに腹を立てたりしません。

「悪をたくらまず」：自分たちに対してなされた悪事を気に留めません。

「不正を喜ばず、真理を共に喜ぶ」：福音の真理に喜びを見いだします。

7節「[7] すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。」

愛は「すべてを忍び」、「すべてを信じ」ことができます。なぜなら、それは神を「信じ」、神に「望み」を置くからです。

これこそが、「教会」の本質であり、「霊的な賜物」の本当の目的です。

霊的な賜物は、「すべての教会メンバー」に与えられた道具であり、それを使うことで私たちは「互いに愛し合うこと」を学んでいくのです。

私たちがその賜物を実際に使い始めると、自分が「無に等しい」存在であることに気づきます。自分の心にイエスのような愛、忍耐強さや情け深さがない。

ひどい扱いにも怒らずにいられるような力も、その相手に積極的に善を行うことなど、とてもできない。

しかし、自分の罪を認め、十字架の恵みを受け入れ、助けを求めることでのみ、私たちはキリストの愛を示すキリストの体となることができます。これこそが「神さまの知恵」なのです。

そして、イエスが十字架にかかる前の夜、弟子たちにこう語られました。

「[34] あなたがたに新しい戒めを与える。互いに愛し合いなさい。私があなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。[35] 互いに愛し合うならば、それによってあなたがたが私の弟子であることを、皆が知るであろう」(ヨハネによる福音書13章34－35節)。

教会の記録によると、使徒ヨハネは非常に年老いてからも、エペソの教会の集会には必ず出席しようとしたそうです。歩けなくなったときには、人々が彼を抱えて連れて行きました。そして集まりの最後には、必ず会衆に向かって語ると言い張ったそうです。

そして彼がいつも語ったのは、「子どもたちよ、互いに愛し合いなさい。」という、ただ一つのメッセージでした。ある人が「なぜ、いつも同じことばかり言うのですか？」と尋ねました。するとヨハネはこう答えました。「それは主の命令だからです。そして、この一つをきちんと守るだけで十分だからです。」

だからこそ、私たちは集まり、それぞれの霊的な賜物を用いて互いに仕えるのです。ある人は教え、ある人は賛美し、ある人は助け、ある人は会堂建築プロジェクトのために捧げます。しかし忘れてはいけません。愛がなければ、私たちは無に等しいのです。愛がなければ、私たちには何の益もないのです。　なぜなら、目標は「互いに愛し合うこと」だからですーイエスの似姿になるために。

クリスチャンでない方々にお勧めします。どうか、イエスをあなたの救い主として受け入れてください。そうすれば、あなたの罪も赦され、あなたも「神の愛の民」として変えられていきます。

定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書　協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 201

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

スモールグループ参加申込み

http://t-b-c.us/sgsu

オンライン献金

http://t-b-c.us/give

SG レッスンの PDF

https://t-b-c.us/sg2925jp

★クラス 101
教会員になるためのクラス
9月7日(日)1:00pm – 5:00pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: どなたでも

★クラス 201
霊的に成長するために
9月21日(日)1:00pm – 5:00pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: クラス 101 を修了し、メンバーの方

★クラス 210
スモールグループトレーニング
10月4日(土)1:30pm – 5:30pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: どなたでも

全クラス申し込み：https://t-b-c.us/classes

奉仕者募集中！

急募！

日本語訳レイアウト&印刷（女性３名募集）

英語のスキルは必要ありません。
・月１回～、土曜日16時にTBCにて作業します。
MS Word を使用してひな形に入れてレイアウトし印刷します。

*スキル：MS Word の操作ができる方。
*TBC の教会員であることが必須です。

連絡先：hiromik@tokyobaptist.org